

都立武蔵野北高等学校  MUSASHINOKITA
HANDBALL
女子ハンドボール部通信

No.26 (元年度2号)

令和元年6月15日(土)

東京都武蔵野市
八幡町2-3-10
都立武蔵野北
高等学校
女子ハンドボール部

みんなで思いっきりがんばりました

39期生が有終の美

応援ありがとうございました



5月28日、武蔵野北女子ハンドボール部は東京都インターハイ予選2回戦で敗れ、39期生は、その戦いの幕を閉じました。

全員が高校進学後に初めてハンドボールに触れたメンバー14人です。

2年前、ボールをキャッチし、投げることもままならないスタートを切った14人でした。

そして1年前のいま、新チームとしてスタートしました。

みんなまだまだ自信のない顔でコートに立った39期生でした。

「私たちだってやれる」と感じ始めたのは、新人戦(10月)のころからだったでしょうか。

「負けず嫌い」が揃っていたのかもしれない。うまくプレーできなくて涙を見せたこともありましたが、一人ひとりが「なにくそ」と努力してきました。

ハンドボールはGK1人、CP6人、合わせて7人で試合を戦います。

14人は、2人でひとつのポジションを任せられ、そこから呼ばれるようになった「2こイチ」を合言葉に、切磋琢磨しながら互いが互いを成長させてきました。

なかなか試合に出られなかった者もいます。でも、あきらめたり、くさったりした者はいません。最後まで自分のプレーを、そしてチームとしてのプレーを追究しつづけました。その意地がぶつかりあったこともありますが、いつのまにかまとまり、チームとしての強さを身につけていきました。「2

苦しい試合ばかりだったけれど最後まであきらめず「挑戦」を続けました

こイチ」が「14こイチ」になっていったのです。

冬の寒い時期の走り込み、東京女子体育館をお借りして毎週の練習会。勝つための練習を繰り返すなかで、チームはさらに強くまとまっていきました。

春には日本一のチーム・佼成女子におじゃまし、ディフェンスをイチから教わり直した「佼成練」にもでかけました。はじめは緊張するばかりで、なかなか頭も身体もついていきませんでした。チームみんなで声をかけあいながら、教わったことを一つひとつ身につけていきました。

今年に入ってから練習試合では、先行される苦しい戦いでも、ディフェンスから立て直すことを覚えました。

最後の大会となったインターハイ都予選2回戦では、残念ながら主力がケガをするアクシデントもあって、思った結果は得られませんでした。みんなが次ぎつぎとコートに立ち、代わる代わる活躍してムサキタらしく、最後まであきらめない試合展開を見せてくれました。

終わってみれば、公式戦では新人戦での勝利が唯一という結果でしたが、あきらめず最後まで挑戦を続けた39期生でした。

そしてなにより、みんなで達成感を得られたことの喜びが、最後の試合後のこぼれんばかりの笑顔に現れていました【写真】。

ごくろうさま、ありがとう39期生!!。 2面につづく→